

何かを始めるきっかけマガジン

緑エンジン

PLUS
engine



2021.3.1
vol.26

特集

contents

都筑を楽しむ 地産地消

Enjoy local foods & products!



〔お知らせ〕
第24回つづき人交流フェスタ
〔市民ライター企画コーナー〕
都筑の地産地消クロスワード

特集

都筑を **楽しむ** 地産地消



Enjoy local foods & products!



地産地消とは「地域で生産されたものをその地域で消費すること」です。生産者と地域の人との農産物の流通だけでなく、人と人とのコミュニケーションが生まれ、地域が活性化します。そんな都筑の豊かな地産地消の取り組みを取材しました。

※特集は、全て「市民ライター養成講座」を受講した市民ライターが記事を書いています。

都筑区の地産地消の魅力

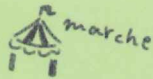
都筑区は、都市農業と良好な住環境が見事に融和したまちであり、そんな素敵なまちをよりよく知っていただくためにも、地産地消の推進に取り組んでいます。

消費者と生産者の距離が近いため、旬の野菜が新鮮なうちに手に入りますし、栄養価も高く、とてもおいしくいただくことができます。おいしい都筑野菜を食べて、コロナ禍を乗り切りましょう！



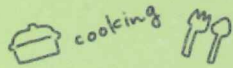
都筑区役所の地産地消担当
原 俊平さん
(都筑区区政推進課)

都筑野菜朝市



月2回程度、地元農家が区役所で朝市を開催しています。また、イケア・ジャパン株式会社の協力のもと、IKEA 港北でも出張朝市を開催しています。
※開催日については、都筑区ホームページなどでご確認ください。

都筑野菜クッキング



都筑野菜を使ったレシピを紹介する料理教室を開催しています。なお、昨今は、感染症の影響を踏まえ、YouTube等に動画を公開する形でレシピ紹介を行っておりますので、ぜひ、ご視聴ください。



令和2年度
都筑野菜クッキング



農業が盛んな都筑区

都筑区は横浜市18区で農家戸数1位。経営耕地面積2位と市内でも有数の農業地域であり、特に小松菜やほうれん草の生産が盛んです。

都筑区では、区内で生産された野菜や果物などを「都筑野菜」と呼び、生活習慣病の予防や食育の推進という観点から区民の健康づくりをすすめると共に、地産地消を進めるためのシンボルとして活用しています。
(令和元年度 都筑区統計要覧より)

1

女性農業者の活躍の場を広げ 生き生きと人生を楽しむ

工房「^{ふき}蔭の道草」 平野フキさん

都筑区は農家と一般家庭の距離が近い。区内に数多くある直売所を利用している人も多いだろう。さまざまな農産物や加工品の生産者の中でも根強いファンがいるという平野フキさんは、地域の女性たちと共に都筑の農業を引っ張ってきた人でもある。そんな都筑の大先輩を訪ねた。

取材・写真・文＝市民ライター・東 尚子



1. 大好きな海外旅行にまた行きたいと話す平野フキさん
2. 世を去る前の道草と思い「蔭の道草」と名付けた工房
3. こだわりの手づくりジャムと甘酒

「農家の嫁」仲間と力を合わせて

都筑区大熊町在住の平野フキさんは、1957年にこの地の花き農家に嫁いできた。実家も農家で子どもの頃から畑に親しんでいたが、「長男の嫁」という立場は想像以上に大変だったそうだ。農作業もある中、家事と子育てはもちろん、大勢いる夫の弟妹の世話もフキさんの仕事。「とにかく時間も自分のお金もなかった」と振り返る。当時の農家は、嫁の立場では休みも収入もないのが当たり前だったのだ。

地域では農繁期に季節託児所が設けられ、同じ立場の女性と顔を合わせることはあったが、皆大変な思いをしながらも互いに悩みを相談できる機会がなかった。そこでフキさんが仲間づくりを呼びかけ、1966年に「大熊生活改善グループ」が発足した。

できるかな？ 皆でやれば、できるよ！

グループができて、忙しくて外出すら難しい中で、最初はなかなか集まらなかった。そこで、メンバーが月2回の農休日をもたらえるよう地域の農家に働きかけ、やがて夫たちの理解を得ることに成功した。

会長はメンバーの持ち回りにし、グループで何をするかは皆で決めた。旅行に行きたいという話になると、旅費を稼ごうと野菜の直売を始めた。食品加工も

勉強した。そのころ地域では集合住宅が増え始めており、新鮮な野菜や漬物などは大人気になった。直売所は「大熊にここ市」として2017年まで30年間続いた。

同じ境遇の仲間と助け合い、目標を見つけ、実現方法を考える。必要な役割は分担する。仲間がいることで楽しみながら活動を続けられる。グループはそういう場になっていった。

15周年の文集制作のとき、最初は皆、文章など書けないと泣いたが、やればできるもので、大きな達成感を得た。25周年にはハワイに行くことになったが、良い機会だからと現地の農家にホームステイして交流することにし、全員が英会話を1年間習って英語で自己紹介できるまでになった。無理ではと思うことでも、皆でやればできる。その体験は新たな原動力になった。

悔いのない生き方をしたい

フキさんが自宅の敷地内に加工場「蔭の道草」を設けたのは70歳のとき。「この歳で？」と家族にも驚かれたそう。自家栽培のブルーベリーをはじめ地元の果物や野菜を使ってジャムや塩麹などを作っている。素材本来の味や色の美しさにこだわり、「加工は家族にも任せない、自分で仕上げたいの」と微笑む。後日ジャムをいただいてみて、余分なものを一切加えていないやさしい味わいに、都筑区



の農産物の魅力を再認識した。

フキさんはこれまでを振り返り、「本当にいろいろな体験ができた。大変だとは思わなかった」と言う。やっておけばよかったと後悔するのはイヤだからと、多忙な中でも人生を楽しんでいる。

今回お話をうかがい、同じ思いや目標を持つ仲間がいることで人生が豊かになり、いくつになっても目標を見つめて歩いていけるのだと教えられた。

工房「蔭の道草」 都筑区大熊町354

都筑区内では以下のJA横浜の直売所で取り扱いあり

JA横浜「ハマッ子」都筑中川店
横浜市都筑区中川中央1-26-6
TEL 045-912-3731

JA横浜「ハマッ子」メルカートきた店
横浜市都筑区東方町1401
TEL 045-949-0211

地産地消で 安心安全の農産物を



マルイファーム 石川照雄さん



都筑区は横浜市の中で農業従事者の多いまちである。(農家戸数479戸で横浜市では1位)。おいしいだけでなく安心して食べられる農産物を、ここ都筑区内で年間約35種類も生産している石川照雄さん。東方町の農園「マルイファーム」で農業にかける思いをうかがった。

取材・写真・文＝市民ライター・黒澤利時

農業は厳しいが楽しい

石川さんは、都筑区に代々根差した農家である。13年ほど前から、後継者不足等で離農した農家の農地を引き受け、現在は4ha(1haは10,000㎡)を耕作する農業経営者である。この規模は横浜市でも指折りの広さで、現在では直売所も設けている。とうもろこしの収穫時期は、朝3時起床、夜11時就寝と、僅か3~4時間の睡眠だが「仕事を辛いとは思ったことがない」という石川さん。苦労を苦労とは思わず楽しく働いている。現在でも農園の周辺には農業を一人では続けられなくなった農家がある。「高齢で農業ができなくなった農家を何とかしたい。遊休農地を放置しておけない。荒らしたくない」と石川さんは話す。

ボランティアの仲間と共に

マルイファームでは、農業ボランティアを受け入れている。最初は小松菜やほ

うれん草などの軟弱野菜だけを作っていた。2009年に都筑区役所が農業ボランティア体験事業に取り組みはじめ、農業ボランティアの研修先になった。その後、ボランティアの人たちを受け入れるようになり、現在のように年間約35品目の野菜や果物を栽培するようになった。朝収穫された野菜の洗い場では、4~5人で野菜を洗い、洗った野菜は秤にかけられ袋詰めになされ梱包される。これらが全て手作業で進められている。現在は60名の人たちがボランティアとして登録している。石川さんは園主として毎週皆さんとミーティングをし、ボランティアの要望も取り入れて農園の運営を行っている。月、水、金、土曜日の朝9時半から12時まで、ボランティアが常時20~30名ほど集まってくれている。「この人たち抜きにはこんなにたくさんの野菜や果物はできない。ボランティアの人たちに教わることもたくさんあるのですよ」と石川さんは話してくれた。

自然を受け継ぐ

地産地消の精神に賛同し、応援する立場の者として、市民のどんな支援を要望されるかと私は質問した。「ここで作った野菜を地域の人たちにおいしく食べていただくことが喜びです」という石川さん。

石川さん取材するため、広々とした農園に足を運び、私はこう思った。私は地元、都筑区が、きれいな空気と水を将来にわたって維持し、長く住み続けられるまちであってほしい。農業をしている人たちを今まで以上に応援したい。瑞穂の国、日本の農業をもっと大切にしたいと感じた。

最後にこれからの目標や希望を石川さんにお聞きした。「私のモットーとしては、ボランティアの人たちと一緒に、皆で楽しく農作業ができることです。市民の皆様が新鮮で安心、安全な農産物を届けることができれば嬉しいです」と楽しそうに話してくれた。

Enjoy local foods & products!



1. にこやかに笑う石川さん
2. 農作業を終えた農業ボランティアの人たち
3. 広々とした洗い場でボランティアの人たちがニンジン洗っている



マルイファーム
横浜市都筑区東方町991番地
〔朝採り野菜直売所〕
水曜・土曜日の14:00~16:30

地元の無農薬小麦を 応援したい！

4

特定非営利活動法人 I Love つづき
ヨコハマ小麦部 中聡美さん

希少価値のある無農薬小麦が、都筑区で作られていることを応援したい、多くの人に知ってもらいたいとの思いでヨコハマ小麦部を立ち上げた NPO 法人 I Love つづき理事の中聡美さん。食べることが大好きという中さんにお話をうかがった。

取材・写真・文＝市民ライター・荒井典子



1. 「畑は気持ちいいですよ！」と優しい笑顔の中さん
2. 小麦の学校の様子
3. 小学校の子どもたちと商品開発。都筑区の形の「Love つづきクッキー」(シェアリーカフェで販売)



無農薬小麦との出会い

都筑区で「まちづくり」活動をしている、NPO 法人 I Love つづき理事の中さん。お菓子に使われている小麦の産地や作られ方が気になり、小麦のことを調べてみると、小麦の自給率は 10% 前後と低く、さらに無農薬小麦が希少であることを知った。以前から野菜を購入している NPO 法人 都筑ハーベストで無農薬小麦を育てていると知る。中さんと都筑区産の無農薬小麦との出会いである。

地元産の無農薬小麦を多くの人に知ってもらいたいと、中さんは、商品を作り販売することを思いつき、NPO の自主事業のひとつとして 2017 年にヨコハマ小麦部を立ち上げた。商品開発を進めていくと、小麦粉の配合、保管、扱い等の難しさに直面した。小麦についてもっと学び、知ることが必要と考え、2018 年に小麦の学校を、翌 2019 年にはこれからの地域を担う子どもたちにも伝えていきたいと、都筑子ども小麦部も立ち上げた。

子どもの発想力に脱帽！

小麦の学校は小学生以上であれば誰でも参加できる。ヨコハマ小麦部のメンバーが講師となり、I Love つづきの運営する「シェアリーカフェ」で小麦のことを学んだり、商品開発等をワークショップ形式で開催。都筑ハーベストの畑を借りて行なわれる、種まき、麦ふみ、収穫、試食会等の体験実習は大人気だという。

私が小麦の学校に参加した日は、「都筑区産小麦と野菜を使った商品を考えよう！」というテーマで、考えた商品を絵に描き発表していた。「子どもの発想力には驚かされることばかり」と中さんも言うように、商品を考える子どもたちは真剣だった。中さんは、物が出来上がるまでの過程を知り、体験することで、地産地消の魅力が伝わるのではないかと考えている。参加していた保護者は「全く食に関心のなかった子が食べ物、生産者に関心をもつようになったことに驚かされている」と話した。

つ・な・が・り

小麦の学校で考えられたアイデアをヨコハマ小麦部で商品開発するには地元産の小麦が協力している。中さんは、商品がたくさん作り売ることが目的ではなく、商品ができるまでの過程でたくさんの人と関わることが大切だという。「福祉施設で作れるレシピを開発し福祉施設の応援につなげていきたい」との思いもある。

今、中さんが頭を悩ませているのは、梅雨時期に収穫する小麦粉の保管だ。小麦粉は温度、湿度管理が難しい。しかし、人とのつながりを大切にしている中さんなら、きっと解決していくことができるはず。「黄金色の小麦もいいけれど、小麦の穂が青々とした畑も素敵です」という麦畑に私も足を運んでみようと思った。

ヨコハマ小麦部
特定非営利活動法人 I Love つづき
(シェアリーカフェ)
横浜市都筑区中川 1-17-22-402
TEL/FAX 045-306-9004
info@ilt.yokohama

5

竹林は地域の宝になる

NPO法人日本の竹ファンクラブ
理事長 平石眞司さん

都筑区は、竹林が多く、かつてはタケノコの一大産地だった。タケノコのモニュメントが中川駅前にあると教えてくれたのは、NPO法人 日本の竹ファンクラブの平石眞司さん。放置竹林が里山を荒廃させると問題になる昨今、市民参加で地域に根ざした竹林再生と竹材活用、まちづくりを都筑区から全国へ発信している。

取材・写真・文＝市民ライター・井野文子

Enjoy local foods & products!



1. 「竹林は厄介者でなく宝」と話す平石さん
2. 幽玄な世界にいざなう「竹灯籠まつり」
(写真提供：日本の竹ファンクラブ)
3. 竹ファンぞろいの市民ボランティア「竹取協力隊」
(写真提供：日本の竹ファンクラブ)

原点は市民による竹林再生

港北ニュータウンが開発された1993年当時、竹林放置で暗くて危険とされた中川の烏山公園。平石さんと近隣住民が立ち上がり、市民自らによる竹林の手入れを手探りで始め、見事に美しい竹林によみがえらせた。平石さんは全国の竹産地280市町村に手紙を出し、竹林の実態を調査した。その結果を生かし、1999年にNPO法人日本の竹ファンクラブを設立する。

平石さんは、竹林を生かす仕組みづくりの達人だ。市民が放置竹林の里親となり、所有者にかわり保全育成をする「竹林の里親制度」、それを実施する市民ボランティア「竹取協力隊」、竹林管理、工芸、親子教室、料理、竹に関するさまざまな技能・文化伝承講座の「竹の学校」など、たくさんのプロジェクトを実施している。活動フィールドは、都筑折本、横浜国際プール「林浴の庭」、小机城址

市民の森、こどもの国、中井町の5カ所に及ぶ。

竹灯籠まつりで人もまちも元気に

活動のハイライトは「竹灯籠まつり」だ。毎年4月に横浜国際プール林浴の庭で開催される。伐採した竹林空間と竹材を活用し、地元の市民、企業、学生など多様な人々が参加する地域ぐるみのイベントだ。竹林の数千個の竹灯籠に灯がともると、幻想的な世界が広がり、人々を癒し魅了する。まつりで使われた竹材は、チップとして加工し、散策路や竹林にもどされ循環する。間伐された竹林ではタケノコがたくさん採れるようになる。竹林をきれいにすることで里山の景観を守り、採った竹やタケノコを使ったさまざまな活動を通して、誰もが楽しみながら、日本の美しい竹文化を継承し、地域もまちも元気になる。「竹灯籠まつり」は、竹林も人もまちもすべてがWin-Winになれる、循環の象徴だ。

竹林が宝に変身する

「厄介者の竹林が宝に変身して、皆に喜ばれるときが一番うれしい」と平石さん。日本の竹ファンクラブは設立から21年を迎えた。これからも持続可能な循環型社会に向けて竹林を活用し、特に創造力が豊かで次世代を担う子どもたちが、遊び楽しみながら学べる環境教育、自然体験教室の充実に力を入れたいとのこと。

私も活動体験させてもらったが、竹を切った瞬間、青竹の香りが竹林に広がりますがすがしかった。竹取協力隊の皆さんは、「美しい竹林を観て、竹林を渡る風の音を聴き、タケノコを味わい、竹を割りスカットする」「竹から色々なものを作るのは楽しい」「身近な竹林の中で体を動かし心身ともにリフレッシュできる」と、竹ファンぶりを語ってくれた。竹資源を地域の宝として大切に生かし、竹文化を市民参加で楽しむことも素晴らしい地産地消だ。皆さんもぜひご参加を。



NPO法人日本の竹ファンクラブ

✉ Office141@takefan.jp

HP <https://takefan.jp/>

〔竹灯籠まつり〕

2021年4月10日(土)※予定
会場：横浜国際プール林浴の庭
ボランティア募集中！1日体験、参加も可！詳しくは上記HPで。

都筑区民活動センターイベント案内

お知らせ

第24回 つづき人交流フェスタ

つづき人交流フェスタは都筑区内で地域活動をしている団体や人材が日ごろの活動を紹介し、区民の皆さんと交流するイベントです。さまざまな活動を見て、聞いて、体験することができます。

パネル展
3/23 (火)~28 (日)

場所：都筑区役所 1階区民ホール
趣味、文化芸術、子育てなど様々なジャンルで活動する団体や人材の活動の内容を紹介します。

ワークショップ
3/27 (土)・28 (日)

場所：都筑区民活動センター 一部事前申込・有料あり
ストラップ作り、お片付けワーク、パソコンサポートなど子どもから大人まで楽しめる内容です。

キーワードラリー

キーワードを集めて言葉を完成させよう。都筑区民活動センターで記念品をプレゼントします。(先着順)
詳細はつづき人交流フェスタチラシにて♪



市民ライター企画コーナー
緑ジングルーム
クロスワード

「都筑を楽しむ地産地消」の記事の中にタテ・ヨコのキーのこたえ5つが隠れています。市民ライターが書いた記事もヒントに、クロスワードパズルを解いてみよう！
★印の文字はつづき人交流フェスタのキーワードラリーのキーワードです。

A		E	★	G	I
J	C			K	
	L				
B				M	
N	D		F		1 2
O					

タテのキー

- A…春夏秋冬のことを2文字で
- B…青白く光る毒キノコは〇〇茸
- C…チャンバラ時代の暗殺者は〇〇斬り
- D…あなたはイヌ派？それとも〇〇派？
- E…竹がたくさん生えている所
- F…地下鉄ブルーラインで 横浜駅の次は高〇〇町駅
- G…丸くて長くて、中が空洞の物は何？
- M…地産物を食べて〇〇トレーニングをして体幹を鍛えよう！
- I…区民活動センターで見つけよう！ 多様な〇〇〇〇〇〇活動

ヨコのキー

- E…滝の水が落ち込んで深くなっている所
- J…和服をきちんと着ること また、人に着せること
- K…ことわざ「泣き〇〇に蜂」
- L…アンパンマンを作った人は「〇〇おじさん」
- M…剣道の防具。手を保護する為のもの
- N…べったんべったん、お餅をつきます
- F…〇〇〇に負けて勝負に勝つ
- O…三溪園、ズーラシア、八景島... 名所がいっぱい

都筑区の マスコットキャラクター

答え つづき 1 2

編集後記

- ▶ 読み手に身近に感じてもらえるような記事を目指しました。(東)
- ▶ 取材の楽しさ、記事を書く難しさを知る、貴重な経験をさせていただきました。(荒井)
- ▶ 貴重な市民ライター体験はドキドキとワクワク。仲間がいてホッとしました。(井野)
- ▶ 循環型持続可能な社会を、都筑区の未来に。今を生きる。(黒澤)
- ▶ 勉強して実行する、久々の感覚。皆でやり遂げる喜びはひとしおです！(若林)



何かを始めるきっかけマガジン「緑ジ」2021年3月第26号
編集/企画：都筑区民活動センター
発行：都筑区役所地域振興課

問い合わせ
都筑区民活動センター
横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1 都筑区役所 1階
☎ 045-948-2237
✉ tz-katsudo@city.yokohama.jp

Facebook